

古代、女性にその名を問うことは^A求婚 vを意味した。(1)万葉集巻頭の歌も、菜を摘む娘に「あなたはどちらの家の人か。名前を教えて」と迫っている。名前にはその人の魂がこもり、名乗ることは魂を相手に渡すこと、結婚を受け入れることだったという▼確かに名前には不思議な力が①ヤド(宿)る。作家(2)三島由紀夫の本名は平岡②公威(きみたけ)。若々しいペンネームに比べ、③ソウチョウ(莊重)な感じだ。もし本名で書いていたら、あの若さで死を④ト(遂)げることはなかっただろうという見方を、どこかで読んだ記憶がある▼名前に人生を大きく左右されるあるいは⑤呪縛(じゅばく)される。そこまではいなくても、微妙な影響を受けることはあるかも知れない。名前の方も、時代の影響を⑥被(こうむ)らざるをえない。「子」のつく名の女子が多かった昭和は随分遠のいた▼名づけには子どもの幸せを願う親の愛が映る。他人と間違えられないために、が命名の根本条件だといったのは批評家の(3)小林秀雄だが、世の中にたった一つという個性の追求も昨今は当たり前だ▼明治安田生命保険による赤ちゃんの名前ランキングには、読み方の難しい名が並ぶ。例えば男子の⑦大翔(はると)、女子の⑧結愛(ゆいな)。(4)思いの詰まった漢字の選び方、そしてその自由(5)ホンポウな読ませ方に目をみはる▼文筆家伊東ひとみさんの近著『キラキラネームの大研究』によれば、漢字は今や、その起源や来歴から⑨カクゼツ(隔絶)され、イメージ優先の「感字」と化したのかも知れないという。⑩トウセツ(当節)の名づけの特徴と歴史的背景を分析して鋭い。

〔2015年7月6日「天声人語」〕

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを答えなさい。

問二 文脈から考えて、^A^Vにあてはまる2字熟語を書き入れよう。

問三 傍線部(1)を調べて、雄略天皇御製のその歌を調べて書いておこう。

(籠もよみ籠持ちふくしもよみぶくし持ちこの岡に菜摘ます子家聞かな名告らさねそらみつ

大和の国はおしなべて我こそ居れしきなべて我こそいませ我こそは告らめ家をも名をも)

問四 傍線部(2)の作品でないものの記号を○で囲もう。

ア 『潮騒』 イ 『憂国』 ウ 『范の犯罪』 エ 『金閣寺』

問五 傍線部(3)の作品でないものの記号を○で囲もう。

ア 『本居宣長』 イ 『私小説論』 ウ 『紀貫之』 エ 『近代絵画』

問六 傍線部(4)とあるが、例えば「大翔」にはどんな思いが詰まっているか。

〔答例〕(世の中で自分の力を十分発揮して、大きく羽ばたいてほしい願い。)

問七 傍線部(5)を漢字に直し、その意味を答えよう。

漢字(奔放) 意味(常識にとらわれず、思った通りにふるまう様子だ。)

問八 自分の名前に込められた思いを調べてみよう。

〔略〕